

ニューノーマル時代の応用物理学会

The Japan Society of Applied Physics in the New Normal Era

東工大¹ 〇波多野 睦子¹

Tokyo Tech¹ 〇Mutsuko Hatano¹

E-mail: hatano.m.ab@m.titech.ac.jp

新型コロナウイルス感染症の急速な蔓延を踏まえ、人類は大きな挑戦をしている。応用物理学会においては、コロナ禍で公益社団法人が責任を果たすべきこと、その相手は誰であろう、と根本に立ち返った。学びが止まってしまった子供たち、高等基礎教育にできた隙間、フェイクも含む情報が溢れている状況で、特別 Web コラム「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理」やオンライン版「おうちでできるリフレッシュ理科教室」などを立ち上げた。応用物理が社会のどのような場面で利用されているか、コロナ以外のテーマについても継続して紹介したいと予定している。なお短期に実現できたのは、本部、支部、分科会、研究会、チャプターなどの横断的な協力体制の効果である。今後も公益性の高い学会としてより、広く活動を展開し、真摯に取り組んでいきたい。またニューノーマルでの学会のあり方を見直すチャンスと捉え、改革を進めている。昨年の秋季講演会はオンラインで開催し、秋季では過去最大の約 9,000 人の参加者が集い、聴講が 500 名を超えるセッションも複数あった。学生の聴講者の参加費をフリーにしたことも参加者増の一因ではあるが、5,000 名以上が参加する日本の学術講演会としては例がない。今回の春季講演会は、よりリアルに近づけるようグレードアップを目指し、ポスターセッション、展示会、懇親会の新形式を準備してきた。企業や海外からの投稿件数や参加者数が増加するか、ダイバーシティが向上するか、どの分野が注目されているか、分野を超えた議論が進むか、などの推移をデータベースで分析し、ハイブリッドも含めた新たな相互コミュニケーション型の情報共有や発信の場の提供を検討したい。しかし申し上げるまでもなくオンラインには限界があり、これまでの皆様の献身的な“応物愛”が薄れるのでは、と悩みは尽きない。世界や社会が急激に変化する中で、従来の PDCA サイクルでは不十分であり、多様な皆様のご意見を重視しながら OODA (Observe→Orient→Decide→Act) ループ思考で試行錯誤している。

本シンポジウムでは、ニューノーマル時代の応用物理学会を考える上に重要な、下記について議論したい。

- ・多様性、インクルーシブを重視した知の統合と拡張による新たな価値の創出。
- ・政治・経済の分断化が進む中、学術・学協会・科学者の連帯や国際協創の重要性。